

海外派兵反対!!



No.24
1992.6.10
定価100円
編集：「風をよむ」編集委員会
発行：共産主義者同盟首都圏委員会

PKOII侵略・派兵法案弾劾!

六月五日未明、特別委員会での強行採決に続いて、自公民三党によって参議院本会議においてPKO法案が可決されようとしている。戦後の政治秩序は今や葬り去られ、なしくずしの解釈改憲が、こうしてPKOII自衛隊の海外派兵法案の成立によって「完成」せんとしている。護憲主義的幻想に引きずられる事なく、いわずや護憲主義的取引に内閣駆け引きなどを当てることなく、反戦反軍保安闘争の新たな大衆的構築を!



PKO法案を廃案にする全国実行委員会主催の「PKO法案を許すな!」集会の様子

PKO法案を廃案へ!
6・12集会
時間・午後六時
場所・社会文化会館
主催・PKO法案を廃案にする全国実行委員会

ストップ海外派兵
5・26全国集会
PKO法案が、自公民三党結託の「再修正」合意によって参議院での山場に差し掛かって五月二六日、日比谷野音において「PKO法案を廃案へ、ストップ自衛隊海外派兵、5・26全国集会」が開かれた。

PKO法案を許すな!
6・14集会
時間・午後一時
場所・恵比寿公園
主催・「フォーラム」海外派兵を許すな!

MR研究会連続公開フォーラムのご案内
労働・労使関係・労働政治
第二回問い直しの「日本的経営」と労働組合
一 日本労働関係、成熟のなかの危機
日時・6月27日(土)午後六時〜九時
場所・渋谷区立勤労福祉会館第2洋室
講師・下田平裕身さん(日本女子大学教授)
「成熟の中の危機」労使関係、現場からの証言
コメンテーター・坂内仁さん(MR研究会員)

MR研究会

MR研究会
第一回フォーラム報告
「労働概念の再検討」
MR研初年度後半のテーマ「労働・労使関係・労働政治」の第一回研究会が五月二二日開かれた。

「労働の歴史」をめぐって、講師は小倉利丸さん、小倉さんの論旨は大略次のとおり。
(1) マルクスは労働過程論を歴史学的にとらえているが、実際は工場での賃労働が念頭にあり、これを歴史化させている。例えば、人と自然の物質代謝を労働過程の本質とみなし、人と人との関係を除外したため、サービス労働が無視されること

「労働の歴史」をめぐって、講師は小倉利丸さん、小倉さんの論旨は大略次のとおり。
(2) マルクスの搾取論は剰余労働の資本による取得のみが問題とされ、労働そのものの意味や非労働とされている諸活動が無視され軽視されている。人々のあらゆる行為は労働であり、こうして点からの日常生活批判(労働力)再生産過程の資本家らの切断が必要だ。
(3) 現代を、情報資本主義として規定し、それまでの工業を基幹とした資本主義と区別する(労働力)の維持と再生産こそが資本主義の「発展」方向を決定しており、管理、情報といったことが決定的なポイントとな

「労働の歴史」をめぐって、講師は小倉利丸さん、小倉さんの論旨は大略次のとおり。
(4) 従来は個人概念としての階級や、階級社会論は、大衆民主主義と情報資本主義化の中で境界に達した。構造概念としての階級の規定や(2)のような運動が必要だ。
これに対して、コメントや意見が次々と出され、特に資本主義の変容についての分析視角、労働概念の一般化・拡張に対する疑義、(労働力)というタームに対する疑問などがあげられた。討論はかなり噛み合った白熱したものとなっただけに、さらに運動にまで話を広げた「続き」が期待される。

会場は全国から結集した市民グループ、労働学生と多彩な人々で埋め尽くされ、PKO法案への危機感をもった大衆の熱気が感じられた。

シリーズ「これからの反戦反軍闘争を考える(その1)」

ハーフ・オブション論とは?

青木雅彦さんに聞く

PKO法案の採決と日本帝国主義軍隊のアジアへの再出兵が現実のものとなろうとしていく。この暴挙を決して許してはならない。だが闘いの見通しは極めて厳しい。米ソ冷戦の終焉に伴う国際帝国主義支配秩序の再編の中で、私達の反戦闘争は、今新たな節目を迎えている。戦後憲法の形骸化と護憲勢力の後退は決定的な地点にいたろうとしている。これに代わって解釈改憲と、「国際貢献」の美名に基づき自衛隊の海外派兵が公然と推進されつつある。他方、これに反対する運動ははかばかしいものではない。一層強められる帝国主義的侵略の策動と、新しい情勢のもとで、戦後の護憲平和の理念と運動を超える、これからの反戦反軍闘争の在り方が真剣に問われなければならない。とりわけ軍事と武装、民族と国家にかかわる政治的見解について、マルクス主義に基づき革命党を目指す私達が沈黙している訳にはいかない。正直に言っておく点については、理論と実践の総体にわたる主張を提起することのできない自らの非力さが情けないが、少しでも問題の核心に迫ることが出来るように努力を重ねたい。そのためにも、このかん反戦反軍闘争のさまざまな分野で実践と研究を積み重ねていく人々に、インタビューを行うシリーズを企画した。

その第一回は「ハーフ・オブション論」を提起して論争を巻き起こしている、京都の「反戦ドタバタ会議」の青木雅彦さんにお話を伺った。五月三日から五日にかけて横浜で開かれた、太平洋洋民衆フォーラム「海外基地の「世紀」へ」と「トマホークの配備を許すな!」全国運動ネットワーク発足会議に出席された青木さんにインタビューを申し入れ、全くの初対面であったが、快く時間を割いて下さった。

ハーフ・オブション論は様々な影響を及ぼすか、劣化した不正な論争を引き出していますが、確かな情報を基にした誤解や、的にお恥かしいことに私達は青木さんの提起のオリジナルも、議論の経緯も正確には知りません。一 それではハーフ・オブション論そのものはどのような提案でしようか?

青木 提案と議論の経緯については、反戦ドタバタ会議が九月一年九月に「ザ・闘論ハーフ・オブション」というパンフを発行しました。それと「労働運動研究」の九月五月号に「軍事費の半減」という文章を書きましたのでそちらを見ていただくのが良いと思います。もともと九一年五月三日に東京で行われた「平和のつくり方・憲法九条の「国連」という市民集会で行った極めてシンプルな提案から始まったわけですが、その後、様々な機関紙などで批判が行われるなど、私自身、意外なほどの反響がありました。時間的経過や、発信地からの距離の

黙している訳にはいかない。正直に言っておく点については、理論と実践の総体にわたる主張を提起することのできない自らの非力さが情けないが、少しでも問題の核心に迫ることが出来るように努力を重ねたい。そのためにも、このかん反戦反軍闘争のさまざまな分野で実践と研究を積み重ねていく人々に、インタビューを行うシリーズを企画した。

その第一回は「ハーフ・オブション論」を提起して論争を巻き起こしている、京都の「反戦ドタバタ会議」の青木雅彦さんにお話を伺った。五月三日から五日にかけて横浜で開かれた、太平洋洋民衆フォーラム「海外基地の「世紀」へ」と「トマホークの配備を許すな!」全国運動ネットワーク発足会議に出席された青木さんにインタビューを申し入れ、全くの初対面であったが、快く時間を割いて下さった。

ハーフ・オブション論は様々な影響を及ぼすか、劣化した不正な論争を引き出していますが、確かな情報を基にした誤解や、的にお恥かしいことに私達は青木さんの提起のオリジナルも、議論の経緯も正確には知りません。一 それではハーフ・オブション論そのものはどのような提案でしようか?

青木 提案と議論の経緯については、反戦ドタバタ会議が九月一年九月に「ザ・闘論ハーフ・オブション」というパンフを発行しました。それと「労働運動研究」の九月五月号に「軍事費の半減」という文章を書きましたのでそちらを見ていただくのが良いと思います。もともと九一年五月三日に東京で行われた「平和のつくり方・憲法九条の「国連」という市民集会で行った極めてシンプルな提案から始まったわけですが、その後、様々な機関紙などで批判が行われるなど、私自身、意外なほどの反響がありました。時間的経過や、発信地からの距離の

黙している訳にはいかない。正直に言っておく点については、理論と実践の総体にわたる主張を提起することのできない自らの非力さが情けないが、少しでも問題の核心に迫ることが出来るように努力を重ねたい。そのためにも、このかん反戦反軍闘争のさまざまな分野で実践と研究を積み重ねていく人々に、インタビューを行うシリーズを企画した。

その第一回は「ハーフ・オブション論」を提起して論争を巻き起こしている、京都の「反戦ドタバタ会議」の青木雅彦さんにお話を伺った。五月三日から五日にかけて横浜で開かれた、太平洋洋民衆フォーラム「海外基地の「世紀」へ」と「トマホークの配備を許すな!」全国運動ネットワーク発足会議に出席された青木さんにインタビューを申し入れ、全くの初対面であったが、快く時間を割いて下さった。

ハーフ・オブション論は様々な影響を及ぼすか、劣化した不正な論争を引き出していますが、確かな情報を基にした誤解や、的にお恥かしいことに私達は青木さんの提起のオリジナルも、議論の経緯も正確には知りません。一 それではハーフ・オブション論そのものはどのような提案でしようか?

青木 提案と議論の経緯については、反戦ドタバタ会議が九月一年九月に「ザ・闘論ハーフ・オブション」というパンフを発行しました。それと「労働運動研究」の九月五月号に「軍事費の半減」という文章を書きましたのでそちらを見ていただくのが良いと思います。もともと九一年五月三日に東京で行われた「平和のつくり方・憲法九条の「国連」という市民集会で行った極めてシンプルな提案から始まったわけですが、その後、様々な機関紙などで批判が行われるなど、私自身、意外なほどの反響がありました。時間的経過や、発信地からの距離の

黙している訳にはいかない。正直に言っておく点については、理論と実践の総体にわたる主張を提起することのできない自らの非力さが情けないが、少しでも問題の核心に迫ることが出来るように努力を重ねたい。そのためにも、このかん反戦反軍闘争のさまざまな分野で実践と研究を積み重ねていく人々に、インタビューを行うシリーズを企画した。

その第一回は「ハーフ・オブション論」を提起して論争を巻き起こしている、京都の「反戦ドタバタ会議」の青木雅彦さんにお話を伺った。五月三日から五日にかけて横浜で開かれた、太平洋洋民衆フォーラム「海外基地の「世紀」へ」と「トマホークの配備を許すな!」全国運動ネットワーク発足会議に出席された青木さんにインタビューを申し入れ、全くの初対面であったが、快く時間を割いて下さった。

ハーフ・オブション論は様々な影響を及ぼすか、劣化した不正な論争を引き出していますが、確かな情報を基にした誤解や、的にお恥かしいことに私達は青木さんの提起のオリジナルも、議論の経緯も正確には知りません。一 それではハーフ・オブション論そのものはどのような提案でしようか?

青木 提案と議論の経緯については、反戦ドタバタ会議が九月一年九月に「ザ・闘論ハーフ・オブション」というパンフを発行しました。それと「労働運動研究」の九月五月号に「軍事費の半減」という文章を書きましたのでそちらを見ていただくのが良いと思います。もともと九一年五月三日に東京で行われた「平和のつくり方・憲法九条の「国連」という市民集会で行った極めてシンプルな提案から始まったわけですが、その後、様々な機関紙などで批判が行われるなど、私自身、意外なほどの反響がありました。時間的経過や、発信地からの距離の

黙している訳にはいかない。正直に言っておく点については、理論と実践の総体にわたる主張を提起することのできない自らの非力さが情けないが、少しでも問題の核心に迫ることが出来るように努力を重ねたい。そのためにも、このかん反戦反軍闘争のさまざまな分野で実践と研究を積み重ねていく人々に、インタビューを行うシリーズを企画した。

その第一回は「ハーフ・オブション論」を提起して論争を巻き起こしている、京都の「反戦ドタバタ会議」の青木雅彦さんにお話を伺った。五月三日から五日にかけて横浜で開かれた、太平洋洋民衆フォーラム「海外基地の「世紀」へ」と「トマホークの配備を許すな!」全国運動ネットワーク発足会議に出席された青木さんにインタビューを申し入れ、全くの初対面であったが、快く時間を割いて下さった。

ハーフ・オブション論は様々な影響を及ぼすか、劣化した不正な論争を引き出していますが、確かな情報を基にした誤解や、的にお恥かしいことに私達は青木さんの提起のオリジナルも、議論の経緯も正確には知りません。一 それではハーフ・オブション論そのものはどのような提案でしようか?

青木 提案と議論の経緯については、反戦ドタバタ会議が九月一年九月に「ザ・闘論ハーフ・オブション」というパンフを発行しました。それと「労働運動研究」の九月五月号に「軍事費の半減」という文章を書きましたのでそちらを見ていただくのが良いと思います。もともと九一年五月三日に東京で行われた「平和のつくり方・憲法九条の「国連」という市民集会で行った極めてシンプルな提案から始まったわけですが、その後、様々な機関紙などで批判が行われるなど、私自身、意外なほどの反響がありました。時間的経過や、発信地からの距離の

に隠れて、議論の中で論者のそれだけの理念が明確になって来なかったように思います。青木 展望についてはそう受け取って下さって構いません。従来の「完全非武装」の是非を巡る憲法解釈の議論は抽象論で軍縮を先送りしたい自衛隊の「注釈」にハマル恐れがあります。具体的、現実的な議論が必要ではないでしょうか。政治運動をやる人の理念というのはたゞ元百年先でも現実化するものじゃないといけないと思います。実現不可能なものは理念とは言えないし、現実化する方策を必ず考えなければいけません。私は平和は世界的にしか実現できないと考えています。一 国平和主義ではありません。政治主張や意思表示に止まるのではなく「ホントに止めよう」ということです。デモや集会によって終わるのではないやり方が必要だと考えてきました。私達の力量は小さなものですが、少数でも影響力を行使できるやり方を考えました。広い範囲から情報を集約し、地道な調査と分析を重ね、事実を知らせるとい活動のスタイルでした。言わば「労働集約型」から「知識集約型」への転換と言えらるかも知れません。それから具体的に考えること、誰にでも分かるやり方を考えること、小さくとも目に見える成果を重ねることなどが大事だと思えます。私の住んでいる京都の隣の宇治市の大久保基地では駐屯部隊の廃止が伝えられており、これを市民の手に取り戻す運動を進めたいと思います。この基地撤去運動を進める際に、ただスローガンを掲げるだけでなく跡地利用の計画まで含めて市民の声を反映させる必要があるのではないのでしょうか。八〇年代は冷戦最後の時代であり、厳しい時期でもあったのですが、この八〇年代の運動の経験と時代の変化とが結び付いたように思います。一 ハーフ・オブション論の展望、理念について聞かせて下さい。十年で半減すれば単純に考えて二〇年で消滅すると思うのですが、また提案の具体性の陰

共同研究会のお知らせ
日時 6月20日(土) 午後五時半〜八時半
会場 文京区民センター(地下鉄・春日下車)
講師 伊藤 誠(東大教員)
テーマ 「現代の社会主義」(講談社学術文庫)
共催 現代史研究会・MR研究会

明るい、しかし空虚な沖縄

土着政党・沖縄社会大衆党委員長 島袋さんを支援する5・16東京集会

沖縄「返還」から二十周年の五月十六日、東京・中央労働会館で「土着政党・沖縄社会大衆党委員長島袋さんを支援する5・16東京集会」が開かれた。これは七月の参院選に沖縄地方の革新統一候補として立候補する島袋さんに、立候補にあたっての抱負、決意を述べていただき、東京での支援の輪を作りつつ、

フェミニズム間論争・その後

どこにいけるかフェミニズム

九二年に入って、日本女性学研究会主催のシンポジウム「八〇年代フェミニズムを総括する」から引き続き、フェミニスト間論争が、何を問題にしたかというかが明らかにされてきている。

「現代思想」92年1月号の「フェミニズム批判」と、「情況」同6月号の「フェミニズム・重層的支配構造を撃つ」の二冊の特集号は九〇年代フェミニズムが考えなければならぬことの方角性が、全体を通じて見えてくる。と、思われる。

伊田久美子さんが主張されるように、性別役割分業の廃止に異議を唱えているのではなく、それを最終目標とするならば、近代的平等主義の徹底と大してかわらないと思う。私たちは「さ」に遠くまで行きたいがために、四苦八苦している訳なんだから。

私は、フェミニズムにおける「資本制」分析を、再生産労働・家事労働を、私的労働として市場外においやり女性に担わせるしくみと賃労働にあつては私的労働を担っているが故に、性差別されるしくみとを、解き明かすことだと捉えたい。そして、他方「家長制」を含めた「性支配」分析が家族を始め、あらゆる社会的領域における性差別の構造、女と男の権力関係を解き明かす視点だと考えている。両方のファクターで、それぞれ分析した上で、それらを総合することによって、女性差別の根源が解明され、女性解放の理論が形成されるんだと理解したい。ところが、上野さんは、家事労働というファクターで「資本制」と家長制との両者を、一度に貫くことが可能だという論法に

復帰処理問題の早期解決とPKOをはじめ安保・基地問題が大きな争点になっていること、特に「沖縄に国連PKF部隊の基地を」との明石発言に対しては、保革を越えて激しい反発が沖縄長の比嘉さんが沖縄からかけつけてくれた。

「土着政治」、「土着政党」ということをキーワードとして連携をめざしていることと、趣旨で、沖自連センターなどのよびかけによって準備された、集会には社大委員長島袋さん、書記長の比嘉さんが沖縄からかけつけてくれた。

島袋さんは、六月の沖縄県議選、七月の参院選を通じて、特に軍転特措法、厚生年金格差是正、戦争マラリア問題など戦後処理、

比、やけに明るいムードだが空虚な沖縄の雰囲気を感じ、さうらに、六・七月の選挙を通じて社大のニューウェーブともいえる新たな層が育ちつつあること、特にかつてのCTS問題の時と違って、石垣新空港建設を巡っては、古い社大と新しい社大が選挙で決着をつける構図になっていることなどの報告があった。

「現代思想」特集号のジェマ・タンク・ナインの「黒人女性、性差別と人種差別」には、大きなショックを受けた。八〇年代は、「白人」のフェミニズムと「黒人」のフェミニズムに二極化してきた。しかし、分裂と内戦を通過することで、「黒人種差別から」とたててきた

閉気がじかに伝わり、かつ示唆に富むものであった。しかし残念なことは、委員長、書記長が選挙前哨戦という超多忙な中でかけつけてくれたわりには、参加人数、こちら側の熱気のようなものがお寒い感じがした。

江原さんは、「性支配」の分析を、男と女の社会的次元における権力関係、「社会的権力」の問題を理論的に説明すること考えなければ、性差別の構造を解き明かすことにはならないという立場で出発された。上野さんのマル・フェミニズムは、ラディカル・フェミニズムが問題にした「性支配」より後退してしまいうるれを感じたため、「ラディカル・フェミニズムの再興」として表現したのではないかと、そして、「文化派」として枠ハメされて、「文化派対唯物派」とい

も一つは、フェミニズムにおける主体の問題について。私達、これまで、女性労働者・女性が、女性解放の主体であるとしてきたが、今や、所与のものとして労働者階級を語ることも、女性一般を語ることも、意味がなくなってきた。論争ではないし、フェミニズムは「本質的に多様性を求め、異質なものへの抑圧や排除と闘う思想である」と、私も思う。八〇年代フェミニズムを経て、「あらゆる問題の中に女の視点を持ち込み、女の立場から自己主張を行うこと」によって、男を基準とする近代的人間観とそれに基づく「普遍」概念を転覆させるという方向でのフェミニズムの開放こそが、九〇年代フェミニズムの課題とする「伊田さんに賛同したい。

今、江原さんは「新しい社会理論」としてフェミニズム「試論」に着手している。大越さ

「新しい社会運動」と労働運動・ノート

「新しい社会運動」は、七〇年代以降の資本主義国家システムの世界的な構造転換のなかで芽生え、八〇年代後半の権威主義的国家体制の下で、広範に展開してきた。その過程は、「古い社会運動」としての労働運動が社会的影響を喪失していく過程でもある。「男性差別労働者を中心に政治的労働組合の分業の上に立ち「フォーティズム」の構成要素であった旧来の労働運動は構造変化の中で無力化してしまっ

共生・連帯のオルタナティブに向けて②

「新しい社会運動」と労働運動・ノート

フェミニズム、エコロジー、運動か、と対比的に描いている。また、「新しい社会運動」の背景には脱物質主義的価値への国際レベルの転換があり、既存の社会的経済的コードに依存せず、自己の帰属的な集合性やアイデンティティに基礎を置くとして

「新しい社会運動」の形成とシステムへの挑戦は、「古い社会運動」と「新しい社会運動」の違いを、組織成員の自己利害の実現が社会的・集合的目標か、先進資本主義諸国の組織労働者の運動が周辺の人々（低賃金労働者層・極貧層）を組み入れた

「古い社会運動」としての労働運動が、権威主義的国家体制下のネオ・コロポラチズム的國家統治に抗するオルタナティブな労働運動として新しく生まれる可能性があるのか、あるとすればどのような中身としてか。

「新しい社会運動」は、言うまでもなく、「新しい社会運動」と課題を共有化することに止まるのではない。労働運動の固有性を保持しつつ、「新しい社会運動」の問いかけを受け止め、「地域と結びつき、生活をも内包した、生き方、働き方そのものを問い直すものとして労働運動を再構築していく試みである」(本紙七号)

「新しい社会運動」は、言うまでもなく、「新しい社会運動」と課題を共有化することに止まるのではない。労働運動の固有性を保持しつつ、「新しい社会運動」の問いかけを受け止め、「地域と結びつき、生活をも内包した、生き方、働き方そのものを問い直すものとして労働運動を再構築していく試みである」(本紙七号)

「新しい社会運動」は、言うまでもなく、「新しい社会運動」と課題を共有化することに止まるのではない。労働運動の固有性を保持しつつ、「新しい社会運動」の問いかけを受け止め、「地域と結びつき、生活をも内包した、生き方、働き方そのものを問い直すものとして労働運動を再構築していく試みである」(本紙七号)

「新しい社会運動」は、言うまでもなく、「新しい社会運動」と課題を共有化することに止まるのではない。労働運動の固有性を保持しつつ、「新しい社会運動」の問いかけを受け止め、「地域と結びつき、生活をも内包した、生き方、働き方そのものを問い直すものとして労働運動を再構築していく試みである」(本紙七号)

「新しい社会運動」は、言うまでもなく、「新しい社会運動」と課題を共有化することに止まるのではない。労働運動の固有性を保持しつつ、「新しい社会運動」の問いかけを受け止め、「地域と結びつき、生活をも内包した、生き方、働き方そのものを問い直すものとして労働運動を再構築していく試みである」(本紙七号)

「新しい社会運動」は、言うまでもなく、「新しい社会運動」と課題を共有化することに止まるのではない。労働運動の固有性を保持しつつ、「新しい社会運動」の問いかけを受け止め、「地域と結びつき、生活をも内包した、生き方、働き方そのものを問い直すものとして労働運動を再構築していく試みである」(本紙七号)

「新しい社会運動」は、言うまでもなく、「新しい社会運動」と課題を共有化することに止まるのではない。労働運動の固有性を保持しつつ、「新しい社会運動」の問いかけを受け止め、「地域と結びつき、生活をも内包した、生き方、働き方そのものを問い直すものとして労働運動を再構築していく試みである」(本紙七号)

「新しい社会運動」は、言うまでもなく、「新しい社会運動」と課題を共有化することに止まるのではない。労働運動の固有性を保持しつつ、「新しい社会運動」の問いかけを受け止め、「地域と結びつき、生活をも内包した、生き方、働き方そのものを問い直すものとして労働運動を再構築していく試みである」(本紙七号)

「新しい社会運動」は、言うまでもなく、「新しい社会運動」と課題を共有化することに止まるのではない。労働運動の固有性を保持しつつ、「新しい社会運動」の問いかけを受け止め、「地域と結びつき、生活をも内包した、生き方、働き方そのものを問い直すものとして労働運動を再構築していく試みである」(本紙七号)